

市町ならびに各校園長会等への意見照会のまとめ

「共に学ぶ」方向性について

- ・ 障害のない子どもにとっても大切な意義があることをしっかり伝えて欲しい
- ・ インクルーシブ教育システム構築は、学校や地域の状況を踏まえ焦らず取り組むべき
- ・ 障害のない周りの子どもたちが障害のある子をどう受けとめていくかが大切
- ・ 時間をかけて「社会」を変えていくことが必要

1 社会的・職業的自立の実現について

- ・ 高校の進路指導においても、特別支援教育のノウハウを生かす工夫が必要
- ・ 障害のある生徒が中学校卒業時の進路先、特に就職先の減少が課題

2 発達段階に応じた指導の充実について

- ・ 幼小中高での発達段階に応じた人権教育の視点が大切

3 教員の指導力や専門性の向上について

- ・ インクルーシブ教育に対する管理職の理解を進める必要がある
- ・ 小中学校特別支援学級の経営がこれまで以上に専門性を求められる
- ・ 保護者との円滑な合意形成を図るためには、各校園長の力量アップが必要
- ・ 各教員への理解啓発がさらに必要
- ・ 「集団を育てる」ことが必要であり、そのための教員の力量アップが重要
- ・ 県と市町とが連携した教員研修の拡充が必要
- ・ 市町教委が行う各校園への直接指導に県教委からの指導をお願いしたい
- ・ 力量ある教員が採用できるよう、採用方法等の工夫を

4 教育環境の充実について

- ・ 障害のある子どもの地域での受け入れ体制の整備が大切
- ・ 地域で学びつつ機能訓練を特別支援学校で受けるなどのシステムづくりが必要
- ・ 地域の小中学校における体制が整っていない現状がある
- ・ 進学校といわれる高校での特別支援教育の充実も必要
- ・ 通級指導教室（小中）の充実および高校での導入検討に賛成
- ・ 「副籍」は、子どもが地域で育つために必要な取組み
- ・ 地域の中で障害のある子の存在を知ってもらうために副籍は有効
- ・ 特別支援学級の担任が特別支援学校に学びに行くという点で「副籍」は有効
- ・ 「副籍」交流時の具体の付添い役などの人的支援が必要
- ・ 「副籍」時の子ども送迎をどう行うかが課題
- ・ 「分教室」・「副籍」は賛成、この方向性に期待している
- ・ 「分教室」・「副籍」は望まれる保護者は多いと思う

5 教育における連携(役割分担)の推進について

- ・ 保護者への理解啓発が大切
- ・ 多様な学びの場を求める保護者の声が高まっている
- ・ 障害者理解に対する（地域への）啓発を地道に積み重ねる必要がある
- ・ 「福祉」と「教育」をつなぐ仕組みづくりが必要

6 適切な就学指導について

- ・ 知的障害の判断に関する「統一的な指標『試案』」は一定効果があった
- ・ 発達障害に関する「統一的な指標」の研究も進めてほしい